

イワガキ養殖試験

牧野賢治・加藤慎治・吉見圭一郎・平野 匠

水産資源の減少と不景気による魚価安の状況下を打開するためには、新しい漁業を創出することにより漁家への新規収入を得させる必要がある。水産資源の影響を受けず安定した収入を得ることができる漁業として養殖が上げられる。既存の養殖として魚類、藻類、貝類養殖がある。しかし、魚類養殖は設備投資、ランニングコストがかかるので、この不況下では不向きである。藻類養殖はノリ、ワカメ、スジアオノリの他に新規としてフトモズク、ヒジキ養殖の研究に取り組んでいるところである。貝類養殖では冬季のマガキ養殖のみであるので、貝類養殖に関してはまだ研究の余地はある。そこで、冬季のマガキ養殖以外に、夏季でも出荷可能なイワガキの養殖研究に取り組み、夏季の主幹漁業としての普及定着を目指す。

材料と方法

イワガキの養殖適地水域の検討をおこなうために、内の海、北灘粟田、和田島、福村、浅川の5地点において養殖試験をおこなった(図1)。種苗はA県から入手した(殻高7~10mm)。イワガキ稚貝が付着しているホタテ殻をカキ養殖用ロープ(直径6mm)に30cm間隔に付け、1本のロープに5枚とり付けた。浅川は養殖筏、あとの4地点に

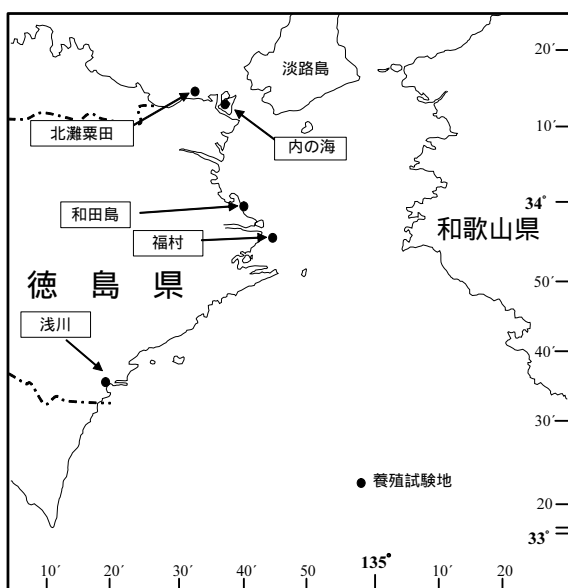


図1 イワガキ養殖試験地

おいては延縄式により養殖した。養殖試験は5月(内の海, 和田島, 浅川), 6月(北灘粟田, 福村)に開始し, 年2回測定をおこない, 生長を比較した。

結果

各試験地におけるイワガキの生長は内の海において10月で平均殻高60.8mm, 3月においては81.5mmまでに生長していた。北灘粟田においては, 9月中旬で平均殻高38.1mm, 3月においては, 68.4mmであった。福村においては, 10月の台風の影響により養殖施設が破損したため, 今年度は試験を休止した。浅川においては, 10月の調査時にヒラムシによる食害が甚大であったため, イワガキ養殖の不適地と判断した。和田島については, 3月には平均殻長50.4mmに生長していたが, 試験に使用したイワガキの約3分の1がヒラムシによる食害を受けた。今後, ヒラムシ対策についても検討する必要がある(図2)。

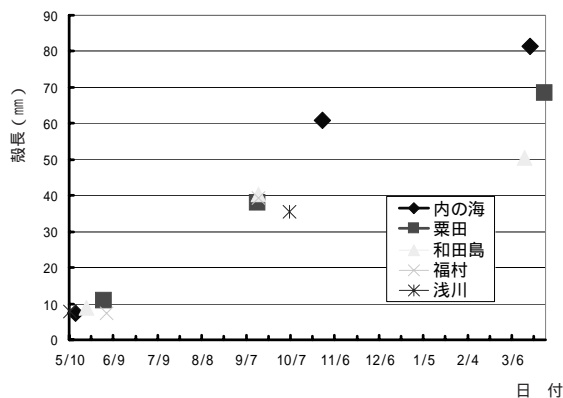


図2 イワガキ養殖試験結果